

日本高専学会第 19 回連続シンポジウム

「リベラルアーツで学生に火を付けよう」

日本高専学会技術者教育研究所
所長 氷室昭三

技術者教育研究所では、下記のように第 19 回連続シンポジウムを開催した。
現在、我が国は人口減少のなか、経済・産業のグローバル化への対策、地方では少子高齢化対策や地方創生等の多くの課題があり、これらの課題やニーズに応えられる「新たな技術者教育」が急務となっている。

そこで、このような新たな時代の中では専門教育の高度化はもちろん、異分野への理解力やコミュニケーション力が必要不可欠である。高専において、学生に授業や課外活動を問わず教養（リベラルアーツ）の学習機会を提供し、基礎的な知識とともに「幅広い知識」を備え、さらに「高い専門性」をもつ人材の育成が実現できる環境づくりをしなければならない。

このようなことから日本高専学会技術者教育研究所では、第 19 回連続シンポジウム「リベラルアーツで学生の心に火を付けよう」を目的とし、下記の発表課題の情報をもとに大いに議論した。

主 催：日本高専学会技術者教育研究所 共 催：米子高専リベラルアーツセンター

日 時：2017 年 2 月 11 日（土）13：30～17：30

会 場：神戸研究学園都市・ユニティ 〒651-2103 神戸市西区学園西町 1 丁目 1-1

オーガナイザ：氷室昭三（米子高専・校長）

発 表 者 ：各 30 分程度、その後総合討論

①原口治氏（福井高専・一般科目（英語）教授）

「高専教育と教養」

技術者の「早期」育成を主眼とした高専ではあるが、教養教育はこれまで継続している。本発表では、教養に相対する高専教育の位置を考察された。鍵語は「実用性」、「英語教育」、「生涯学習」、「人工知能」等。

②谷野圭亮氏（大阪府立大学高専・一般科目（英語）講師）

「府大高専における教育用 SNS "Edmodo" を利用した反転授業の実践」

授業時間の効率的な利用のために、SNS “Edmodo” を利用した反転授業(Flipped Classroom)について、まず、授業準備や必要な環境や機材について説明された。次に、アンケート調査によって学生の学習意識の変化を調べたので、その学習姿勢への影響について考察された。

③堀畑佳宏氏（米子高専・教養教育科（数学）講師）

「教養と抽象化能力」

ものごとを抽象化して捉える力は、価値観が多様化する昨今ではより重要となっている。またその力は、自分自身を知る上でも重要である。本発表では、学生との対話を通じて発表者が考えた教養と抽象化能力について説明された。

④加藤博和氏（米子高専・教養教育科（社会）准教授）

「高専における市民性育成」

20 歳で学生が卒業していく高専では、教養を備えた善き市民を育成することも使命と考える。他方、“社会（科）の授業は面白くない” という学生の声も聞かれる。そこで、消費者教育、模擬選挙などを扱った実践的な授業の成果と課題について紹介された。

⑤森 佳奈枝氏（福岡大学大学院人文科学研究科 教育・臨床心理専攻）

「学生に求める前に教員についての再考を」

まず、高等教育において職業教育が台頭するなかで大学教員が考える高専における「リベラルアーツ」について提示された。そのうえで、今日高専が抱える状況と高専教員の状況から、教員が備えるべき知識・能力について再考された。